

【失礼な敬語】「させていただく」の使い方を間違えていませんか？

<https://tabi-labo.com/amp/216833>

謙譲の表現という「させていただく」を思い浮かべる人は少なくないと思うが、使いこなすことが相当難しい表現である。それでは「させていただく」について解説していこう。

単なる「する」の謙譲語ではない

「させていただく」には大きく分けて2つの用法がある。厄介なことに、その2つは相反する性質を持っている。

1つ目は「厚かましくて申し訳ないと思いつつ、私は～する。ありがたいことに、それをあなたが許可してくれたから」という気持ちで用いるものだ。まだ許可が下りていない行為について述べるときには「させていただけますか」という願望や問いかけの形になる。

もう1つは、相手の意向など全く考慮せずに「私は～する」と一方的に宣言するものである。言葉づかいは丁寧でも自分勝手なことをするわけだから、表現と行為のギャップが大きい。

このように「させていただく」は単なる「する」の謙譲語ではない。謙虚な表現だと思い込んで「させていただく」を多用すると、本人の意志と裏腹に、失礼な人という烙印を押されかねない。

GOOD！な使い方

「早退させていただけないでしょうか」

まず「させていただく」が動詞「する」の使役形「させる」と、「～てもらう」の謙譲語「～ていただく」からなっていることに注目したい。使役形には、本人がしたがっていることをしてもよいと認める使い方がある。「～てもらう」はその人から受けた恩恵への感謝のこめられた表現だ。その人物が目上の存在であれば「～ていただく」となる。

したがって「させていただく」を用いる際には、「人が何かをすることに許可を出す誰か」と「することを許してもらう誰か」がいなければならない。

「頭痛がひどいので、申し訳ありませんが、今日は早退させていただけますでしょうか」

これは意味からいうと許可と恩恵、文法的に見れば使役と謙譲という、まさに正統派の「させていただく」である。これが1つ目の用法だ。

慥慥無礼な言い回し

「会社を辞めさせていただきます」

もう1つの「させていただきます」は、相手に失礼であることを十分に承知しながらあえて用いる。意図的な慥慥無礼である。

「会社を辞めさせていただきます」

この意味は「こんなとこやめてやる！」と同じだが、そんな捨て台詞を吐くのではなく、わざわざ謙譲表現「させていただきます」を使うのである。これは、低姿勢な言い方でありながら、決定事項を一方向的に通告している。相手を不愉快にさせるために用いているのだ。

敬語は相手を苛立たせもするし、怖がらせもする。「やめさせていただきます」と相手の了解を得ることなく申し渡すのは、「させていただきます」の本来の姿ではないのだ。

2つ目の用法、すなわち、失礼な相手に対して、それを上回る「失礼のお返し」をしようとわざと必要以上の敬語を用いるのが、戦略として行う慥慥無礼である。

「させていただきます」→

「いたしました」で十分な場合も

「させていただきます」を使う必要がない、または使わないほうがよいケースも挙げておこう。

(寄付金を募っている団体に宛てて)「少額ですが送金させていただきました」

(新入社員の自己紹介)「この春、A大学を卒業させていただきました」

(若い女性タレントのブログ)「このたび入籍させていただくこととなりました」

相手の許可も依頼も恩恵も受けていないような場合に「させていただきます」は使えない。自分の行為を丁寧に述べたい場合、相手を立てる低姿勢な言い方にしたい場合は、「いたす」を使えばよい。「する」の謙譲語「いたす」はそのために存在する。

「送金いたしました」「卒業いたしました」「入籍いたしました」で丁寧な気持ちを伝えることができる。場合によっては単に丁寧語で「しました」でも構わない。無理に「させていただきます」を使うことはない。

「締切は10月末とさせていただきます」

決定事項の伝達には失礼

自分で決めたことを低姿勢に述べるつもりで「させていただきます」を連発するのも考えものである。

「締切は10月末とさせていただきます」「著者校正は2回とさせていただきます」

これはある企画会議における出版社の人の言葉だそうだ。「～です」のへりくだった形が「～とさせていただきます」だと勘違いしている人は少なくないが、自分が決めたことを相手に伝達するとき、または相手の了承を得たいと願うときに「させていただきます」を使うと、慇懃無礼になってしまう恐れがある。

「させていただきます」を一度も使わなくても言いたいことを伝えることができる。

「締切は10月末です」または「10月末までに原稿をお送りいただけますか」「校正は2回までにしてください」

敬意は全く失われず、むしろ「させていただきます」よりもはるかに謙虚な言い方になる。「させていただきます」に自己規制を書けると、言い回しを工夫するよい訓練になる。

『[失礼な敬語 誤用例から学ぶ、正しい使い方](#)』

コンテンツ提供元：光文社